

提案者(事業者)	長野県朝日村
設計者	宮本・倉橋設計共同体(代表構成員:宮本忠長建築設計事務所)
施工者	松本土建・清沢土建特定建設工事共同企業体(代表構成員:松本土建)
建設地	長野県東筑摩郡朝日村大字古見 1555-1

竣工済

竣工済につき
簡略版としています

提案の
概要



A. プロジェクト全体の概要

築 80 年経過し、老朽化した役場庁舎の移転新築事業。木構造躯体に村産材カラマツを活用し、店舗と併設した木造 2 階建て庁舎建設事業。

B. 提案する木造化・木質化の取り組み内容の概要

- 建築基準法に基づく国土大臣認定第 1 号の信州型接着重ね梁 (B タイプカラマツ) を使用。
- 2 階の一部床構造をカラマツ集成材厚板パネルを用いた片持ちスラブとする。
- 店舗棟の壁にカラマツ集成材厚板パネル壁柱構法を採用。
- 建物の一部に雨水被害で倒木した村産材カラマツを使用。
- 伐採期を迎えている大径木のカラマツを芯去り材として使用。

C. 提案のアピールポイント

- カラマツにおいて最先端の技術を集めた木造庁舎とすることで、全国的に伐採期を迎えているカラマツ使用のモデルとなる。
- カラマツが建築用材として使える事実を広げることで、利用拡大に繋がる。
- 伐採から製材を地元業者でまかなうことにより、徹底して資材調達コスト、CO₂ 排出量の削減を行い、経済的にも環境的にも今後のモデルとなる。



外観

評価の
ポイント



築 80 年経過し老朽化した役場庁舎の移転新築プロジェクト。

庁舎部分では、執務室や村民交流ホールなどの大空間にカラマツ集成材の登り梁、中空間の梁に大臣認定のカラマツ信州型接着重ね梁を用いるとともに、2 階の床をカラマツ集成材厚板パネルによるスラブとする構造計画である。さらに、村民交流ホールにヒノキの大黒柱、店舗棟の壁にはカラマツ集成材壁柱構法を採用するなど、適材適所に地元産のカラマツ、ヒノキ等をあらかわしで用い、地域材利用に積極的に取り組んでいる。

伐採から製材を地元業者でまかなうことにより、徹底して CO₂ 排出量の削減を行い、経済的にも環境的にも今後のモデルケースとなることが期待できる。

木造化・木質化の
取り組み
内容



先端性・先進性

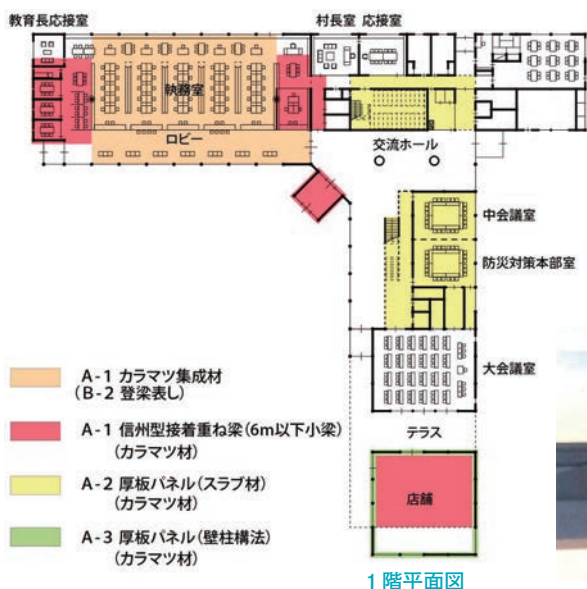
- カラマツ集成材を主体とし、信州型接着重ね梁を一部用いた構造計画。
- 厚板パネル（カラマツ）を用いたスラブ。
- 厚板パネル壁柱構法（カラマツ）を用いた店舗棟の構造計画。

波及性・普及性

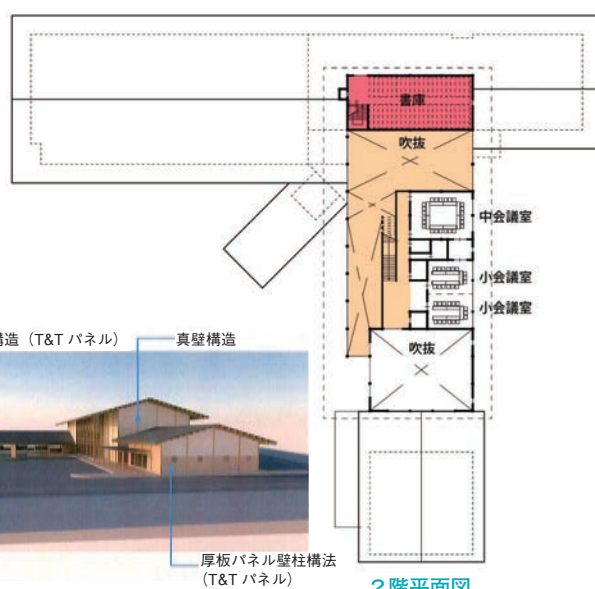
- 執務室・ロビー・村民交流ホールは、架構をあらわし。
- 内外装仕上材は積極的に村内産材とし、真壁工法でアピール。

使用する木材、木質建材の特徴

- 村内産カラマツ材を用いた構造計画。
- 村内産樹木を樹種によって使い分けられた内装・家具計画。
(天然カラマツ・ヒノキ・クリ・ケヤキ・マツ・スギ、イチイ)
- 村民交流ホールに村内産ヒノキ材を大黒柱として象徴化。
- 外壁に村内産カラマツ材をT & Tパネル（人工乾燥材）として使用。
- 村内産カラマツ製サッシを採用。
- 大径木のカラマツ材を芯去り材として使用。



1階平面図



2階平面図

プロジェクト
データ



提案者（事業者・建築主）、設計者・施工者、建設地は扉頁参照

建物名称：朝日村役場庁舎

主要用途：事務所、店舗

主要構造：■木造（■軸組構法 □枠組壁工法 □丸太組構法 □その他） □鉄骨造 □鉄筋コンクリート造 □鉄骨鉄筋コンクリート造 □その他

防火地域等の区分：□防火地域 □準防火地域 □法22条区域 ■その他の地域

耐火建築物等の要件：□耐火建築物 □準耐火建築物（60分耐火） □準耐火建築物（45分耐火） ■その他の建築物

敷地面積：9,580.51㎡

建築面積：2,459.63㎡

延べ面積：2,245.33㎡

軒 高：10.66m

最高の高さ：7.64m

階 数：地上2階

事業期間：平成28年度～29年度

補助対象事業費：833,426千円

補助限度額：113,242千円



厚板パネル使用



信州型接着重ね梁



カラマツ集成材使用



壁柱構法





外観



エントランス外観



村民交流ホール



執務室・ロビー